

カトリック河原町教会だより

2016年5月

「神のいつくしみの特別聖年」 召命祈願ミサ ～侍者合宿最終日に～

3月31日（木）大塚司教司式による召命祈願ミサが、2泊3日の侍者合宿に参加した小学生と共に行われました。大塚司教は「侍者合宿の目的は、大事なミサに奉仕することの大切さを学ぶことです。ミサは一致していることを目に見えるかたちに表すものです。奉仕する喜びを分かち合ってください。神様はできないことは頼まれません。心に神様の声が聞こえたら『はい』と返事をしましょう。神様は返事を待ってられます」と子供たちを励まされました。

（編集委員）



イエス様との出会いこそすべて

この25年間でわたしがいただいた大きな恵みは、イエス様の愛を心で体験させていただいたことです。最初わたしは、イエス様の愛というものがよく分かりませんでした。神学校で学び、海外で研修し、自分ではそれなりに分かったつもりでしたが、結局それはヨーロッパ神学の発想、つまり頭だけの理解にすぎなかったのです。しかし、25年間の時間の流れの中で、少しずつイエス様はわたしにご自分の愛を知らせてくださいました。特にこの数年間、人々との関わり、祈り、現場での学びにおいて、イエス様の愛に深く触れさせていただく機会をいただきました。人間的に多くの欠点を持ち、限界を抱え、弱く、罪人でしかないわたしを、イエス様はありのまま愛してくださっていることに気づかされたのです。それまでは自分で何かが出来る、自分で頑張る、罪を犯さないようにする、そうならないと愛してもらえないと思っていたのかもかもしれません。しかし、イエス様は罪人であるわたしをそのまま愛されるだけでなく、そのわたしの貧しい愛を求めておられることに気づかされました。「イエス様はありのままの今のわたしを愛され、そのままのわたしがイエス様を愛することを望んでおられるのだ」。これが、今のわたしが感じていることです。

京都教区司祭 北村善朗神父

ペトロは三度イエスを知らないと言い、イエス様を裏切ります。そして、弟子たちの裏切りによって十字架に架けられ、苦しみと死を通して復活されたイエス様は、自分を裏切ったペトロにご自分への愛を三度求められました。その時、ペトロはただ「わたしがあなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます」としか言えなかったのだと思います。このペトロの言葉を、わたしは今の自分の思いとして、司祭叙階25周年にあたり選びました。

2月に帰天された溝部脩司教は、多くの人々にイエス様との出会いの機会を与えられました。仮通夜の時わたしは、こんなにも多くの人々がイエス様の愛に飢え渴いているのだということに心を打たれました。わたしたちにとって、イエス様との出会いこそすべてであると言えるでしょう。イエス様と心で出会い、イエス様の愛に触れれば、わたしたちは変わります。心と体が自然に動いて、イエス様のため、皆のために何かしたくなる。イエス様との出会いこそ福音であり、福音宣教の源であり、わたしたちの喜びであり、すべてなのです。



司祭叙階25周年感謝ミサで配布のご絵
「救い主」アンドレイ・ルブリョフ作

